

- 問1 戦国大名が自らの領国に「分国法」を制定した主な目的や歴史的背景の説明として、最も適切なものはどれですか。 (2026年 岩手県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|---|--|
| 1. 家臣が主君に打ち勝つ下剋上の風潮の中で、家臣の行動を取りしめり領国支配を固めるため。 | 2. 外国からの侵略に備えるために、全国の武士を一元的に組織化して国防を強化するため。 | 3. 朝廷の許可を得て、幕府の承諾なく独自に隣国の領地へ侵攻できる権利を確保するため。 | 4. 室町幕府の將軍の権威を高めるために、全国の守護大名に共通の規律を守らせるため。 |
|---|---|---|--|
- 問2 戦国時代の社会において、大名の本拠地として栄えた都市の事例として、越前（福井県）の朝倉氏が築き、家臣の屋敷や商人の住まいが計画的に配置されていたことで知られる場所はどこですか。 (2016年 千葉県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------|------|--------|-------|
| 1. 博多 | 2. 堺 | 3. 一乗谷 | 4. 石山 |
|-------|------|--------|-------|
- 問3 16世紀に起きた「ルターによる宗教改革の開始」「イエズス会の設立」「フランシスコ・ザビエルによる日本へのキリスト教伝来」という3つの出来事について、時期の早いものから順に正しく並べたものはどれですか。 (2020年 長野県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1. イエズス会の設立 → フランシスコ・ザビエルによる日本へのキリスト教伝来 → ルターによる宗教改革の開始 | 2. ルターによる宗教改革の開始 → フランシスコ・ザビエルによる日本へのキリスト教伝来 → イエズス会の設立 | 3. ルターによる宗教改革の開始 → イエズス会の設立 → フランシスコ・ザビエルによる日本へのキリスト教伝来 | 4. フランシスコ・ザビエルによる日本へのキリスト教伝来 → ルターによる宗教改革の開始 → イエズス会の設立 |
|---|---|---|---|
- 問4 14世紀から15世紀にかけて、室町幕府の支配力が次第に弱まり、幕府の権威が失墜していきました。このような社会情勢の中で、下の者が実力で上の者を倒して地位を奪う風潮が広まりましたが、この風潮を何と呼びますか。 (2024年 秋田県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|---------|---------|--------|
| 1. 尊王攘夷 | 2. 門閥政治 | 3. 大政奉還 | 4. 下剋上 |
|---------|---------|---------|--------|
- 問5 1543年に種子島に漂着した船により、日本に初めて鉄砲が伝えられました。当時の種子島の鍛冶職人がその仕組みを学び国産化を進めたといわれる、この武器を日本に伝え、後に長崎などを拠点にキリスト教の布教を伴う貿易を行った国はどこですか。 (2016年 長野県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|----------|---------|---------|
| 1. オランダ | 2. ポルトガル | 3. スペイン | 4. イギリス |
|---------|----------|---------|---------|
- 問6 戦国時代に各地を支配した戦国大名の多くは、「下剋上」という風潮の中で台頭しました。この時代における「下剋上」の説明として、当時の社会状況をふまえた最も適切なものはどれですか。 (2016年 静岡県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|---|--|
| 1. 下の者が実力で上の者に打ち勝って地位を奪い、新たな領主として領国支配を広げていった。 | 2. 農民たちが宗教的な団結を強めることで、武士の支配を実力で排除して自治を行った。 | 3. 朝廷の権威を背景とした下級武士が、実力行使によって幕府の政治を批判し、地位を向上させた。 | 4. 幕府から任命された守護が、自らの実力を高めて隣国を吸収し、支配権を世襲していった。 |
|---|--|---|--|
- 問7 1543年に種子島へ伝来した鉄砲が、戦国時代の日本において急速に普及し、合戦のあり方を大きく変えた主な要因として正しいものはどれですか。 (2020年 群馬県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|-----------------------------------|--|---|
| 1. 堺や国友などの都市の職人が高い技術を用いて、鉄砲の国内生産を可能にしたため | 2. 室町幕府が鉄砲の製造を独占し、全国の大名に無償で配布したため | 3. ポルトガル人から輸入するのみで、国内の需要をすべてまかなうことができたため | 4. キリスト教の布教を許可した大名に対してのみ、スペインが鉄砲を贈呈したため |
|--|-----------------------------------|--|---|
- 問8 戦国時代の甲斐国（現在の山梨県）を治めた武田氏が定めた「甲州法度之次第」のように、各地の戦国大名が領国支配のために定めた法について、その特徴を説明したものとして適切なものはどれか。 (2021年 京都府公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|--|---|
| 1. 家臣同士の私的な争いを禁じる喧嘩両成敗などの規定を設け、大名による裁判権を強化した。 | 2. 鎌倉幕府が定めた御成敗目目をそのまま引用し、全国一律の公平な裁判を保証した。 | 3. 全国の公家を統制し、儀式や行事のあり方を細かく規定することで天皇の権限を制限した。 | 4. 朝廷が定めた律令制度を復活させ、中央集権的な国家体制を再構築することを目指した。 |
|---|---|--|---|
- 問9 1549年に鹿児島へ上陸し、日本に初めてキリスト教を伝えた宣教師について、彼の所属組織と人物名の組み合わせとして正しいものはどれか。なお、この人物は後に山口などでも布教を行い、胸の前で手を合わせる姿を描いた肖像画のモデルとしても広く知られている。 (2020年 埼玉県公立入試 類似)
- | | | | |
|------------------------|--------------------------|---------------------|----------------------|
| 1. イエズス会 — フランシスコ・ザビエル | 2. フランシスコ会 — フランシスコ・ザビエル | 3. イエズス会 — ルイス・フロイス | 4. フランシスコ会 — ヴァリニャーノ |
|------------------------|--------------------------|---------------------|----------------------|
- 問10 戦国大名の武田晴信（信玄）が定めた「甲州法度之次第」のように、大名が独自に法を定めた背景を説明した次の文の（ ）に当てはまる語句を答えなさい。「戦国大名は、幕府の法が及ばなくなった自分の（ ）において、家臣の勝手な婚姻を制限したり、領民を管理したりすることで支配を強化しようとした。」 (2023年 山口県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------|-------|-------|------|
| 1. 幕領 | 2. 領国 | 3. 荘園 | 4. 藩 |
|-------|-------|-------|------|
- 問11 島根県にある石見銀山が、2007年に世界文化遺産に登録された歴史的な背景や理由として最も適切な説明を次の中から選びなさい。 (2016年 鳥取県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|---|
| 1. 飛鳥時代に日本で初めて銅が発見された場所であり、日本最古の貨幣である和同開珎の原料を供給したため。 | 2. 瀬戸内海の海運を利用して全国に銅を供給し、江戸幕府の貨幣制度の安定を支えた最大の拠点であったため。 | 3. 16世紀から17世紀にかけて大量の銀を産出し、アジアだけでなくヨーロッパ諸国との貿易においても重要な役割を果たしたため。 | 4. 明治維新後に政府によって官営模範工場が設置され、日本の近代産業の発展を象徴する場所となったため。 |
|--|--|---|---|
- 問12 1543年にポルトガル人を乗せた船が漂着し、日本に初めて鉄砲が伝えられた場所はどこですか。その地理的な位置関係を示す説明として正しいものを選んでください。 (2024年 大阪府公立入試 類似)
- | | | | |
|----------------------------------|------------------------------|-----------------------------------|--------------------------------|
| 1. 関東地方の東部に位置し、東京湾の入り口に当たる千葉県の浦賀 | 2. 九州地方の南端に位置する鹿児島県の離島である種子島 | 3. 九州地方の北部に位置し、大陸との交流が盛んだった福岡県の博多 | 4. 四国地方の南部に位置し、太平洋に面した高知県の土佐清水 |
|----------------------------------|------------------------------|-----------------------------------|--------------------------------|
- 問13 戦国時代において、下の身分の者が上の身分を圧倒する「下剋上」の風潮が広まった背景として、最も適切な説明はどれですか。 (2022年 熊本県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|--|--|
| 1. 朝廷が新しい官位制度を導入し、能力に応じた地位をすべての人々に与えたため。 | 2. 幕府が強力な中央集権体制を確立し、地方の武士に直接命令を下すようになったため。 | 3. 応仁の乱によって幕府の支配力が弱まり、各地で実力による領国支配が行われるようになったため。 | 4. 農業技術が向上したことで農民が完全に自立し、武士による支配が消滅したため。 |
|--|--|--|--|

答え合わせ・解説

問1	答え 1 家臣が主君に打ち勝つ下剋上の風潮の中で、家臣の行動を取りしめり領国支配を固めるため。	戦国時代には、家臣が主君に打ち勝つ「下剋上」の動きが社会全体に広がっていました。そのため戦国大名は、家臣の勝手な行動や争いを防いで取りしめり、自身の領国支配を安定させる目的で独自の分国法を定めました。
問2	答え 3 一乗谷	一乗谷は、戦国大名朝倉氏の拠点となった代表的な城下町です。発掘調査により、武家屋敷や職人の住まい、庭園などが非常に良好な状態で確認されており、当時の都市の様子を伝える貴重な史跡となっています。選択肢にある堺や博多は、商人たちによる自治が行われていた港町であり、石山は浄土真宗の寺院を中心とした寺内町（じないちょう）の性格が強い場所です。
問3	答え 3 ルターによる宗教改革の開始 → イエズス会の設立 → フランシスコ・ザビエルによる日本へのキリスト教伝来	まず1517年にルターがドイツで宗教改革を始めました。これを受けてカトリック側が勢力回復のために1534年にイエズス会を設立しました。そしてその一員であるフランシスコ・ザビエルが1549年に日本の鹿児島へ到着し、キリスト教を伝えました。この時系列は「宗教改革への対抗手段として海外布教が始まった」という因果関係と結びついています。
問4	答え 4 下剋上	応仁の乱以降、室町幕府の將軍や守護大名の権威が低下したことで、実力を持つ家臣や国人が主君を追放して自ら領地を治める動きが全国で見られるようになりました。この現象は戦国時代の大きな特徴であり、新たな支配者である戦国大名が誕生する要因となりました。
問5	答え 2 ポルトガル	1543年に種子島へ鉄砲を伝えたのはポルトガル人です。この出来事をきっかけに、日本国内で鉄砲の量産が始まり、戦国時代の戦術が大きく変化しました。また、ポルトガルとの貿易は「南蛮貿易」と呼ばれ、キリスト教の布教と密接に結びついていたことが特徴です。
問6	答え 1 下の者が実力で上の者に打ち勝って地位を奪い、新たな領主として領国支配を広げていった。	戦国時代には、本来は主君に仕える立場であった守護代や国人などが、武力などの実力によって守護大名を追放したり、倒したりして自らが戦国大名へと成長する事例が多く見られました。これにより、室町幕府の任命に基づかない新しい支配体制が各地に形成されました。他の選択肢は一向一揆や守護大名の強化、幕末の動きを説明したものです。
問7	答え 1 堺や国友などの都市の職人が高い技術を用いて、鉄砲の国内生産を可能にしたため	種子島に伝来した鉄砲は、当時の優れた鍛冶技術を持っていた堺（大阪府）や国友（滋賀県）の職人たちの手によって、すぐに構造が研究され「国内生産」が行われるようになりました。これにより、高価な輸入品に頼ることなく大量の鉄砲を確保することが可能になり、戦国大名の間に広く普及しました。輸入のみに依存していたとする説は、当時の広範な普及の実態とは異なります。
問8	答え 1 家臣同士の私的な争いを禁じる喧嘩両成敗などの規定を設け、大名による裁判権を強化した。	分国法は、戦国大名が家臣団を統制し、領国を安定させることを目的としていました。特に「喧嘩両成敗」の規定は、武士同士が私的な武力で行っていた解決を禁じ、大名の判断に従わせることで領国内の紛争を抑える重要な仕組みでした。
問9	答え 1 イエズス会 — フランシスコ・ザビエル	16世紀のヨーロッパでは宗教改革が起こり、それに対抗する形でカトリック側は自己改革と海外布教を推進した。その中心的な組織がイエズス会であり、創立メンバーの一人であるフランシスコ・ザビエルが日本にキリスト教を伝えた。ルイス・フロイスは織田信長と交流し『日本史』を記した人物であり、ヴァリニャーノは天正遣欧少年使節の派遣を指導した宣教師であるため区別が必要である。
問10	答え 2 領国	戦国大名が直接支配を及ぼした範囲は「領国」と呼ばれます。江戸時代の「藩」や、中世の貴族・寺社の土地である「荘園」とは区別されます。分国法は、この領国内でのルールを明確にすることで、大名の権威を確立し、富国強兵を進めるための重要な手段でした。
問11	答え 3 16世紀から17世紀にかけて大量の銀を産出し、アジアだけでなくヨーロッパ諸国との貿易においても重要な役割を果たしたため。	石見銀山は、最盛期には世界の銀産出量の約3分の1を占めていたと言われるほど生産量が多く、大航海時代の欧州諸国の地図にもその存在が記されていました。また、銀山を運営するにあたって周辺の森林を過剰に伐採せず、持続可能な資源管理を行っていた点も、世界遺産としての高い評価につながっています。
問12	答え 2 九州地方の南端に位置する鹿児島県の離島である種子島	1543年、九州の南にある種子島にポルトガル人が漂着した際、島主の種子島時堯が彼らから火縄銃を購入したことで日本に鉄砲が伝来しました。この出来事をきっかけに、日本国内でも鉄砲の製作が行われるようになり、全国へ普及していきました。
問13	答え 3 応仁の乱によって幕府の支配力が弱まり、各地で実力による領国支配が行われるようになったため。	応仁の乱をきっかけに室町幕府の権威が失墜すると、従来の身分秩序や支配体制が崩れました。それまでの守護大名に代わり、実力で領国内を統制し、富国強兵を進める戦国大名が各地に出現したことが、下剋上の象徴的な現象です。